

# 2016年のハマフエフキ採卵

中村勇次\*<sup>1</sup>・勝俣丞生\*<sup>2</sup>

## 1. 目的

ハマフエフキの養殖用及び放流用種苗の生産に必要な受精卵を得る。

## 2. 材料と方法

2016年3月8日に36尾の親魚を海面生簀から陸揚げして、屋内の100kL円形コンクリート水槽1面に收容した。2016年7月22日に、16尾を海面生簀に戻し、20尾を屋外30kL円形コンクリート水槽1面に移槽した。親魚は、2014年に購入した天然魚で、雌雄比は不明であった。陸上水槽での飼育は2016年8月8日まで行い、その後は海面生簀に戻した。

採卵期間中の給餌は、スルメイカ及び配合飼料(株式会社ヒガシマル:サンゴEP12)を、週3回程度(原則として月・金:配合飼料、水:イカ)与えた。

採卵期間中は、銅イオン発生装置(和光技研株式会社)を用いて、適宜、飼育水中の銅イオン濃度が50～100 $\mu\text{g}/\text{mL}$ の範囲になるように調整した。

採卵方法は、水面直下に設置したサイホンを用い

て、採卵槽に設置した採卵網(網地の目合い0.72mm、大きさ約60cm×約70cm×約80cm)で濾して採取した。サイホンには内径38mmのホースに塩化ビニールパイプを取り付けたものを4本用いた。

採卵網に収集した卵は軽く水切りをし、湿重量を測定した。種苗生産に用いる予定の卵は、200Lアルテミア孵化水槽に收容し、ゆっくりと攪拌して10分程度静置させることで浮上卵と沈下卵を分離した。全卵、浮上卵及び沈下卵の卵数は重量法で求めた。

## 3. 結果及び考察

陸上水槽での飼育期間中の水温は、20.5から30.3 $^{\circ}\text{C}$ の範囲で推移し、平均水温は、25.5 $^{\circ}\text{C}$ であった(図1)。

産卵は、3月16日以前から始まり、8月1日までみられた(図1)。種苗生産に用いた総浮上卵数は7,091.8万粒で、総ふ化仔魚数は3,388万尾、種苗生産回次ごとのふ化率は、20.4～79.7%の範囲であった。

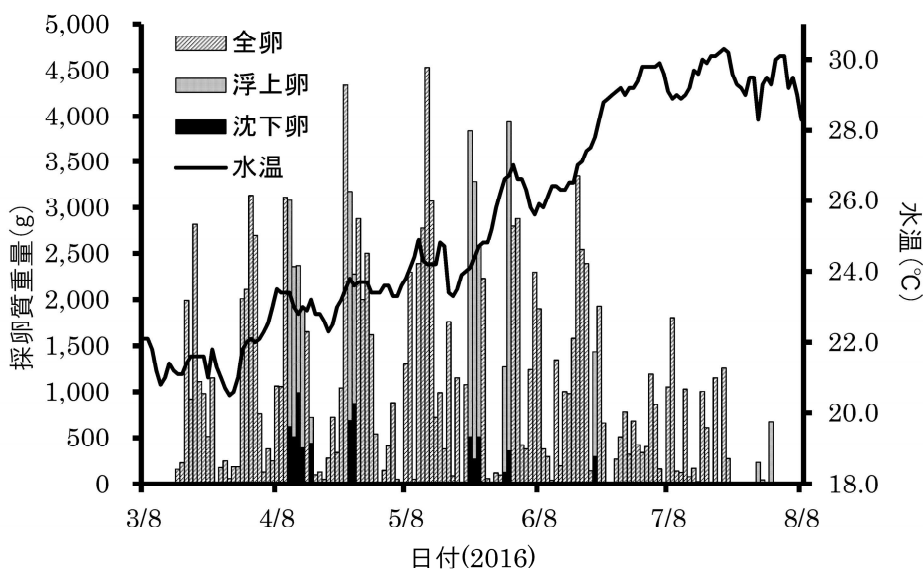


図1 ハマフエフキの採卵量及び飼育水温の推移

\*<sup>1</sup>現在の所属:水産海洋技術センター石垣支所

\*<sup>2</sup>:定年退職